

たつくし 竜串

再生 目標

近年衰退の著しいサンゴ群集を主体とする海中景観および海域生態系の保全・再生

DATA

エリア：足摺宇和海国立公園
所在地：高知県土佐清水市
着手：H15

竜串自然再生協議会

概要：竜串湾のサンゴを再生するため、海底に堆積した泥土の除去や、流域からの様々な環境負荷を抑制することを検討。

設立日：H18.9.9
構成員数：69
全体構想作成日：H20.3.28
実施計画作成日：未作成
(H21.3 現在)



エンタクミドリイシ



衰退したサンゴ群集



竜串湾は、高知県土佐清水市南西部に位置し、約49haが4地区からなる海中公園地区に指定されており、温暖な黒潮の影響を受けてイシサンゴ類をはじめ、多くの海中生物が生息しています。その中で、サンゴ群集は多くの生物を育む基盤となっており、特にシコロサンゴ群集はその規模の大きさから学術的にも高い価値を有しています。また、沿岸部は足摺宇和海国立公園の主要な利用拠点となっています。

しかし、竜串湾では開発や産業の影響による水質悪化およびサンゴ食害生物の大発生等に

よるサンゴ群集の衰退に加え、平成13年の高知県西南豪雨により河川から大量の土砂が湾内に流入し、その堆積土砂により多くのサンゴが死滅しました。現在でも湾内は、局地的に泥土が堆積し濁りやすい状況にあり、大雨時には流域から大量の土砂が流れ込むなど、サンゴ群集を取り巻く周辺環境の悪化や海中景観の著しい衰退がみられています。このため、流域全体の視点から、かつての造礁サンゴ類を中心とした海中景観と生態系を取り戻すための取組みを進めています。



降雨後、強い濁水が流れ出している西の川（左）が、三崎川に合流する地点の状況



下層植生が発達していないヒノキ林の林床（西の川流域）



植生の回復がみられない崩壊地（西の川流域）

自然再生の手法

- ▶ 竜串湾内に堆積した土砂の除去→①
- ▶ 河川流域の土砂発生源対策

サンゴの成長を阻害する要因の排除については、湾内に堆積した土砂の除去に加え、河川流域の土砂発生源対策が求められます。

このため、サンゴ群集と周辺生態系、河川流域の現状調査を行い、合わせて海底堆積泥土除去実証試験を行っています。

また、流域全体での取組みが重要であることから、情報発信・普及啓発および自然環境学習を推進しています。



海底に堆積した泥土



湾内に流れ込んだ流木

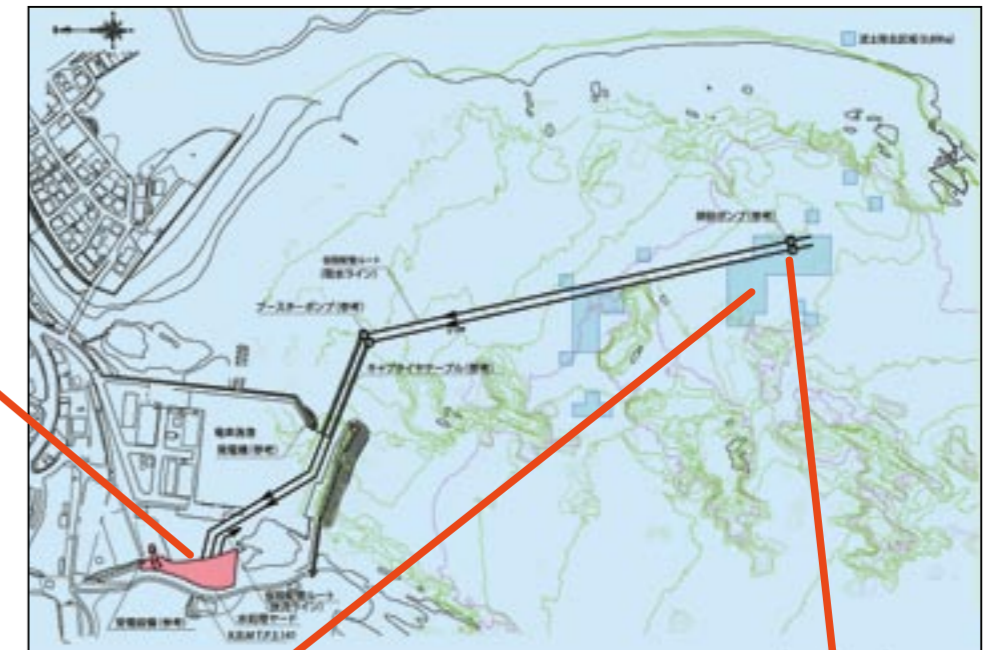


竜串湾に関する流域

① 海底堆積泥土除去

泥土堆積の著しいエリアにおいて、作業船から排砂ポンプを海底に下ろし、堆積した土砂を吸引します。また、これを仮設の海底配管で沿岸部に設置した水処理プラントまで送り、水分を除去した上で泥土を処分します。

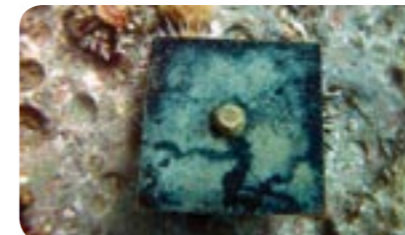
泥土除去の方法



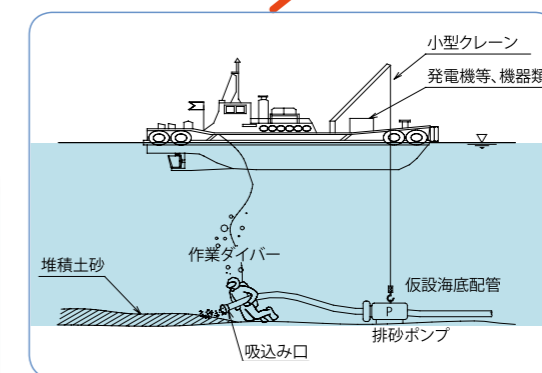
水処理プラント



小型クレーンと排砂ポンプ



泥土除去前後の浮泥量を平面板を用いて調査しモニタリングを実施



作業船の仕組み



泥土除去状況（吸引）